

特集

看取りを語る

人は、どこで、どのように死ぬのが望ましいのか。医療行政を見ると、在院日数の短縮化、在宅医療の拡充など「施設から在宅へ」という流れのなかにあるといえますが、実際にはほとんどの人が病院で死んでいるのが現状です。

「看取り」は今後、どこで、誰によって、どのように行なわれるべきなのか。本誌では識者による鼎談、対談を各1編ずつ企画いたしました。いずれも、混沌とした「看取りの未来」に指針を示してくれるでしょう。

■【鼎談】触れること、看取ること

——看取りの医療にいちばん必要なこと

川島みどり×渡辺裕子×皆川夏樹

■【対談】看取りは誰の仕事か？

——医療者が「科学者」であることの意味 植島啓司×名越康文

特別記事

患者さんの「人生」を支える ライフマップの試み(前編)

石井保志

論考

体圧分散マットレスの乱用がもたらす 弊害の可能性

徳永恵子

招待席

“ギターを弾く看護部長”の マネジメントの心得

柿原康博さん

編・集・後・記

●ある療養病床の看護師が言っていました、「介護職と一緒に働く、看護師の仕事というのが何なのか、常に問われている気がする」と。誕生して20年以上が過ぎ、介護職は療養病床においては既にケアの中核を担っています。看護と介護の仕事の違いは何なのか、看護は「ケア」において何をすべきなのか、実際に介護職と働いていない看護師にも考えていただきたく、今回の特集を組みました。今後の協働の参考になれば幸いです。

で、今回の特集を終えて、『看護学雑誌』から『看護教育』に完全に異動します。短い間でしたが、皆様お世話になりました。【大野】

●巷では、整理術なるものが流行っております。机の整理から考え方で、幅広い範囲で応用できます。情報過多の時代だからこそ、当たり前の整理術が声高に叫ばれているのかもしれませんが、社会人1年目に、整理することの大切さをベテラン社員に叩き込まれましたが、整理術を習得することができずに3年が過ぎました。私の思考とデスクは、まるでカオスのようでした。しかし、4月から一念発起し、机の整理を日課にしています。最近では、整理することにだいぶ慣れてきました。整理することで、無駄な時間が少なくなり、物事がスムーズに進みます(たぶん……)。いつの日か、編集後記も理路整然としたものを書けるように明日もデスクを整理します。【吉田】

●連載「こんな方法もあるかもしれない」の筆者である介護福祉士の岡田慎一郎さんが先日、理学療法士の国家試験に合格されました。介護士として働きながら専門学校に通い、後半は「古武術介護」の講義を全国で行ないながらの資格取得。おめでとうございます! 【鳥居】

看護学雑誌 第72巻第6号 2008年6月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年々ぎめ予約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・Vol.70 No.5以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

『看護学雑誌』編集室(担当/白石・鳥居・大野・吉田) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/08/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。